

茂木敏充衆議院議員との対談 第 3 回

全 4 回

衆議院議員 茂木敏充先生

開倫塾塾長 林明夫

林 : おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴き頂きまして、ありがとうございます。毎月第 3 週は、ゲストをお招きしてお話を伺っています。今日も先月に引き続きまして、衆議院議員で、情報通信技術(IT)担当大臣もお務めになられました茂木敏充先生をお招きしています。「少子高齢化社会」についてお話を伺いたいと思います。先生よろしく願いいたします。

茂木 : こちらこそ、よろしくお願いします。

林 : 第 1 回目は、日本の少子高齢化社会の特徴、第 2 回目はその社会的インパクトについてでした。今回は、どのようなお話をして頂けるのでしょうか。

茂木 : 今回は、少し具体的な解決策ということで、子育て、女性の社会進出のお話をしたいと思います。私は、日本の少子化対策にはいろいろな意味で問題があると思っています。林さんは、U 字カーブ・M 字カーブという言葉聞いたことがありますか。

林 : 聞いたことはありますが、よく分かりません。説明して頂ければありがたいです。

茂木 : 少し専門的な言葉なのですが、U 字カーブは、グラフで見ると縦軸に出生率をとり、横軸に国の経済発展の度合いや女性の社会進出の度合いをとります。発展途上国は出生率が高く、1 つの家庭で 10 人くらい子供を産みます。日本も戦後すぐは 4 人以上産んでいました。それが先進国になり、経済成長してくると子供の数が少なくなってくる、つまり出生率が下がってきます。そして、ボトムまできて、今度は逆に女性が働きながら子育てできる北欧のような社会になると、もう 1 度出生率は上がってきます。このようなことで、形としては U の字になりますので、U 字カーブという言い方をします。

それに対して M 字カーブは、縦軸に女性の就業率、働いている率をとり、横軸に女性の年齢をとります。すると、だいたい 18 歳～ 22 歳で高校や大学を卒業して働き始めるので、これらの年齢から 30 歳くらいまではこの率が高くなります。しかし、日本では、子育て期に 1 度仕事を辞め、子供がある程度の年齢になるまで再就職しません。そして 40 代以降で復職する人が出てきてまた就業率が少し上がる。ですから、フタコブラクダ、アルファベットの M 字のようになるので、これを M 字カーブと言います。実は女性の就業率がフタコブラクダになるのは日本だけなのです。他の国はヒトコブです。子供を産んで育てるとき、会社は辞めずに出産休暇や育児休暇を取りそのまま仕事を続けるので、極端に谷ができない。このような違いがあります。

日本は今U字カーブのボトムにいます。韓国、イタリア、スペインと同じステージです。これを右上の方、ヨーロッパの先進国の方にもってくる。1つにはこのような努力が必要です。同時に、これから女性が独特の感性や素晴らしい才能をもっと活かすために、子育て期にも仕事を辞めずに続けていけるような環境をつくっていく。例えば、早朝から、また夜遅くまで子供を預けられるような保育施設をもっと増やす、日曜日にも預けられる施設にする。仕事の勤務形態等々に応じて育児をするような環境を整える、このようなことも必要です。

林： 環境整備ですね。ところで、先程U字カーブの説明の中で国の経済発展のお話がありましたが、豊かさの中で失ったものもかなりありますね。

茂木： おそらく、家族の価値観、コミュニティの価値観などが崩れてきていると思います。価値観の変化の背景には30代、40代の子育て期の経済的な負担が大変だという現実問題もあるのだと思います。社会保障費が88兆円というものすごい額になっていて、それは100万円のお札の束を東京から青森くらいまで並べた額であるというお話もしましたが、これが誰のために使われているかも重要なポイントです。具体的数字で説明します。88兆円のうち、約60兆円は高齢者給付金、お年寄りのための対策費です。これに対し、少子化対策に使う児童家庭給付金はわずか3兆2000億円です。

林： 随分少ないですね。

茂木： かたや60兆円、かたや3兆2000億円、20対1です。これまでの日本は、多産よりも長寿を支援する対策が中心でした。もちろん、お年寄りを敬う、困っているお年寄りを助ける、きちんと年金が受け取れるようにすることは大切です。一方で、次回お話ししたいと思います、医療費などにはかなりの無駄があります。無駄をなくして捻出したお金は、主に少子化対策、子育て支援に使っていくことが必要だと思います。

林： 素晴らしいですね。そのためにはどのようにしたらよいのでしょうか。

茂木： 考え方を変えることです。女性やお年寄りは弱い存在ではなく、これから新しい社会をつくっていく中心になるのが、女性の持っている感性であり、お年寄りの持っている知恵や経験だと思います。このような力を活かすためにも、保育の環境・子育ての環境を整えて、2人目、3人目を産んでも十分に育てられるような経済的な支援をしていくことも必要だと思います。例えば、現在イギリスやフランスでは幼児教育は無料です。子供の医療費についても、もっと家庭の負担を軽減すべきだと思います。税金面でも、フランスはN分N乗方式で税金が家族合算です。ですから、家族の人数が多ければ多いほど税金が安くなります。もう1度家族の価値観などを見直す上でも、税政上の工夫は必要だと思います。

林： 子育てと社会進出とを両立するためには、価値観の転換と環境整備が大事だということですね。今日も素晴らしいお話を伺うことができました。子育てと女性の社会進出との両立をどのように図るかについて、衆議院議員で元IT担当大臣をお務めになった茂木敏充先生にお話を伺いました。ありがとうございました。

茂木： ありがとうございました。

林： ぜひ皆様も、この問題についてお考え下さい。